

第1回 栃木県立益子芳星高等学校 学校運営協議会 報告

開催日時 令和6年6月21日(金) 14:30~16:30

開催場所 本校会議室

出席委員 大塚 昌哉 佐久間藤也 小倉 美保 加藤 義勝
池田 範夫 宮下 博幸 保坂 一哉 福島 礼司
篠原 泰三 佐藤 広志 宇都木修一

1 開会

2 学校長挨拶

今年度より田野中と七井中の校長先生に新たに参加いただいた。生徒の様子は3年生が7/1からの求人に対して、2年生もインターンシップに向けて本気モードになってきている。1年生は学校に馴染んできた。この会の目的は子供たちのために学校と地域・保護者が一体となること。本日は学校運営の基本方針を承認していただく。7/25 栃木県総合教育会議でましこ未来大学についての発表をする。生徒の発表に対して意見を願います。

3 栃木県教育委員会挨拶

生徒を取り巻く環境は多様化しており、地域との協力が不可欠である。育てたい生徒像を地域と共に知恵を出し合って反映し育むことが有効である。日光明峰・馬頭高校から始まり特例校6校に学校運営協議会が設置された。努力義務化されて配置の拡大を進めている。益子芳星高校は、地域とともにやってきているので、その強みを活かして行ってほしい。

4 出席者紹介

5 確認及び承認

- (1) 会則の確認 資料1、2のとおり。
- (2) 委員の確認 資料3のとおり。
- (3) 会長・副会長の選出、承認、挨拶

6 報告事項

- (1) 令和5年度活動状況報告 資料4のとおり。
- (2) 本校の現状と課題について 資料5

○本校生徒の状況

在籍 380名。男子 159名・女子 221名。女子が多いのは例年の傾向。3年生のみ男女半々。今年度の新生は1学級減だが22名足りなかった。どの中学からも減っているが中村中と清原中が例年より多かった。本校を希望する中学生を増やすのが最大の課題。部活の加入率は男子57%・女子62%。R元までは強制加入だったので男子86%・女子79%だったがR2より自由加入になり昨年まで加入率が下がっていた。今年度は1年生が半年間はいずれかの部活に加入することになった。今の高校生は中学時代にコロナ禍であったた

め十分に部活を経験できていない。部活の良さを味わってほしい。

○進路状況

2年位前までは進学の方が多かった。地元に残る生徒が多い。就職内定率は100%。ファナックや日産などへも数多く就職し、工業高校の生徒に比べても遜色がない。公務員は警察官1名。その前も市役所や町役場などに合格しており、公務員講座の成果が出ている。大学は毎年10名前後。短大は全国的に希望者が減っている。就職は製造業が多い。ミスマッチをなくすため製造業のインターンシップを増やした。

○本校の特色

スクールガイドに本校の特色4つが出ている。6つのコースが特色なのは変わりがない。単位制による少人数授業では、1クラスを2分割とさらに少人数に分けている。分割授業が増えているので生徒は質問しやすいし、教員の目も届きやすい。

○今年度の新たな取組

通級指導の特例校として取り組み始めた。提出物が出せない、書くスピードが遅い等、特性に合わせた支援をしていく。生徒の困り感のアンケートを実施して、夏休みの保護者面談で説明し、相談を受け、2学期から本格的に取り組んでいく。

7 協議

(1) 令和6年度学校運営方針について 資料6

●県から出されたスクール・ミッションを前面に出していく。目指す生徒像はスクール・ポリシーにあわせた。生徒が卒業する段階でどのような人材になっているかをグラデュエーション・ポリシーとして昨年度より具体的に表現した。基本理念は変更なし。重点目標に通級指導の整備を追加した。

○規模がどのくらいでどのくらいの時間、子供に対応できるのか。

●現在調整中。他校は多いところで10名くらい。少ないところは1～2名。こういった取組を始め徐々に増えている。栃木県は全国で一番遅れている。時間はかかるが実態調査をして進める。2階にある相談室を専用の部屋として放課後（7限目）実施する。教育相談の担当が、生徒がどういうところに困り感を持っているか丁寧に確認し、対応する。アンガーマネジメントやコミュニケーション系のことが多いのではないかと思う。学習の遅れを取り戻すのは本来の通級指導ではないが、どこでつまづいているのか確認し取り除くことも大切。週1回1時間プレ通級から始める。望むのであれば単位認定も考えている。

○義務教育は通級というのは原則として特別支援が対象。高校ではどうか。

●生徒の困り感というものを広い定義でとらえている。

○第三者の認定がされてからではないのか。

○義務教育と高校での通級の認識・イメージは違う。例えば中学校では学習障

害の子は別室で授業。高校は放課後の時間に行く。

- 担当者についてはどんな職員が対応するのか。
- 通級指導担当と校内の特別支援コーディネーターがともに指導していく。
- 保護者はイメージがわかりにくい。誤解されると難しい問題になるのではないかな。
- 通級指導があって丁寧というのが具体的に明確に理解されれば生徒に選ばれる学校につながる。現段階ではまだ明確ではない。
- 通級については黒羽高校がすすんでいるという話を聞く。みんなと同じ行動ができない等、周囲から見ればあきらかにそうでも本人から申し出がない場合はどうなるのか。
- 世の中に出た時に困るという状況を理解してもらって対応する。どこまで踏み込んでやっていけるかはこれからである。
- 町で活躍できる人材に育ててもらっている。子供の数が減っている中、地域の行事に参加してもらうなど活躍する場をつくってもらってありがたい。

運営方針について 拍手で承認

(2) 総合教育会議における地域連携の取組に関する発表について

- 益子塾で陶器市ボランティアとして生徒とかかわっている。自主的にゴミ拾いや道案内など先輩から伝統的に引き継がれている。要望に応えたアンケート集めや募金集めなど芳星高校の生徒がいないと成り立たない。学校で地域を考えてもらっている。陶器市との関りの継続が当事者として新たな課題を見つけることにつながり、発展している。卒業後、Uターンで帰ってきて地元で頑張ってくれるのも課題解決の一つのきっかけになっている。
- 「人のために」という言葉がすばらしい。その気持ちを伝統的につなげてほしい。学校の特色として益子焼を作ることができるのだから、器のための料理作りや料理のための器作り、色々なコラボにチャレンジして人が集まる学校になると良いと思う。
- 有名作家の佐久間さんに気軽に相談をしてほしい。
- 保育ボランティアは、子供たちが喜んでいるし、生徒も楽しんでもらっている。だがしや楽校はとても楽しそうだった。保育ボランティアの時にもやってほしい。「居場所と舞台」との言葉が印象的。子育てをしている保護者や保育をしている職員との関りも増やして地域社会とのつながりを広げてみれば更に地域との連携ができる。
- OTF（大人の友達増やそう）大作戦がいい。
- だがしや楽校は未来大学の実践型。本来は地域の課題を解決するものだったが初めて実践に力を入れてもらった。400名の老若男女が参加して楽しんだ。スクール・ミッションの人材に恥じない内容だった。今後の協力をお願いしたい。

- 益子町が消滅してしまう可能性のある市町村に名前があがっていた。若い人の力が必要。3年間で学んだ地域とのつながりを一過性で終わらせない。星の宮フェスティバルを10年続けたがコロナで駄目になった。今は子供の居場所作りを考えている。子供が色々な人と交流する場所が必要。実施することになったら協力してほしい。
 - 発表を聞いて益子の明るい未来を感じた。OTF大作戦をもっと広げてほしい。
 - 自分の息子（卒業済）も未来大学で活動していたはずなのにこんなにイキイキしていなかった。親としてうらやましい。続けて頑張ってもらいたい。
 - 良い発表をありがとう。7月の本番も頑張ってもらいたい。益子がとても良い場所なのは「居場所と舞台」があるから。OTF大作戦に参加していきたい。
- (3) 益子芳星高等学校の魅力化、特色化に関する意見交換
時間の都合上、次回
- (4) その他
- 新聞で高校生のSNSの時間が平均6時間15分とのこと。授業時間より多いのでは。学習時間を確保するためにスマホの制限について学校はどう考えているのか。
 - 使い方として危惧はしているが特に制限は設けていない。生徒同士で問題が起きるときは必ずスマホが絡んでいる。1年生については全体で指導の時間を設けている。
 - 中学校としても制限はかけていない。近年みんな持っているという前提で指導していかなくてはならない。中学校のトラブルの背景は殆どがSNSである。
 - 昼夜逆転の悪影響もある。朝起きられずに不登校が近年多くなっている。
 - 基本的な生活習慣の確立が難しい。園児も親のスマホでYouTubeをみている。幼稚園では制限してくださいと伝えている。
 - 電車ではみんなスマホを使っている。スマホを使えるというのは他のことも出来る能力があるので、良い方向にむかえばいいのではないかと。

8 その他

第2回は10月に実施予定。